

# 女性がかかわれば、男性もかわれば、

## 第42回県連女性部大会

第42回女性部定期大会を5月26日、同和企業センターでひらき、17支部69人が参加した。

磯崎美幸・女性対策部員(新宮)の司会で、水平社宣言を阿部晴美(那賀)さんが朗読した。議長団には吉本信子(古和)さんと松田康子(杭瀬)さんが選出された。

はじめに、主催者を代表して山本昌代・女性対策部長は、5月の第63回全国女性集会へのお礼のなかで「女性がかかわれば、部落が変わる」という言葉は、女性が変わらないと部落の男性も変わらないという意味がある。また、狭山の闘いでは、99.9%の確率で石川さんと筆跡が違くと証明された。再審開始にむけ、女性部として、いっそう闘いをすすめていかなければならない。一年間の活動について、議論いただきたいとあいさつした。

県連を代表して、藤本哲史・執行委員長は、全国女性集会は大成の理におえる



あいさつする山本女性対策部長

啓・和歌山市市長は、全国女性集会は女性のパワーで差別をなくそうというメッセージが発信されていた。市では悪質な差別書き込みを阻止するため5月からモニタリング事業を開始した。部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすべく、田中一寿・県環境生活部県民局長は、女性の問題は、企業でのボス

ことができた。全国の仲間から多くの刺激をうけながら女性の立場で解放運動をすすめていってほしい。「部落の男性が変わらなくてはいけない」とあいさつする「お前もな」という声があった。狭山事件は55年になる。今年が最後の闘いしたい。最後に「推進法」が制定され、一年半以上が経過した。実態調査については、法務省から具体的な内容が明らかになっていない状況。和歌山市は5月から悪質な差別書き込みへのモニタリングをはじめた。県下の市町村への拡大が大切とあいさつした。

トや賃金はまだまだ多くの格差がある。家事・育児・介護は変化しつつも女性が負担を強いられることが多い。少しずつではあるが変化している。さまざまな問題を解決するために意見交換をし、議論をしながら一緒にとりくみをすすめていきたいとあいさつした。

高信としみ・連合和歌山女性委員会委員長は、全国女性集会に参加し多くの女性の思いが伝わり感銘をうけた。2013年安倍政権は、女性の活躍を位置づけた。女性の活躍を位置づけていく。数年経過しているが男女間格差の指数は低く、性別役割分業はまだ残っている。平和・人権・男女差別をなくすよう男性も女性とともに学習を深め、自己意識改革と組織のあり方を変えていくことが必要だと思ふ。連合として2020年までに女性の参画率を30%に掲げている。6月ILOにおいて仕事の世界における暴力とハラスメントの条約制定に向けた議論がはじまる。セクハラ行為自体を禁じていらない法を改め行為そのものを禁じる規則や罰則を導入しハラスメントのない社会に向けてとりくみを同じ女性としてすすめていこうとあいさつがあった。

藤本眞利子・特別執行委員長は、全国女性集会のオ

プニングセレモニーは心動かされた。分科会では、差別体験の発表があり、まだまだ厳しい部落差別があることを実感したとあいさつがあった。松井資喜・青年部長は、女性部と合同の学習会にとりくみ青年部も意識改革をしていきたいとあいさつした。

2017年度経過報告を宮本睦・事務局長がおこなった。和歌山全女に向けて各支部へ要請行動をおこなったことや1日研修会を実施し青年部も一緒に男女平等社会について学習したことを報告した。2018年度活動方針案を北内ますみ・副部長と山本はつ美・対策部員がおこない、狭山第3次再審闘争や行政闘争、女性部組織強化について一年間の方針を提案した。

質疑では、映画「獄友」について、和歌山でも上映会をするよう女性部からも声を上げてみてはとの発言があった。

新役員を清水千秋・役員選考委員長(杭瀬)から報告があり、新役員を代表して山本対策部長は、2期同じ体制ですすめたい。運動は厳しくあるが、人には優しくして女性部活動をすすめていきたいとのべた。

大会宣言を井上百々代・対策部員が提案し、最後に母は闘わんを手話で歌い大会を終えた。

# 青年の力を結集し

## 第39回青年部定期大会

県連青年部第39回定期大会が5月27日、同和企業センターでひらかれ、12支部55人の青年・高校生が結集した。

主催者を代表して、松井資喜・青年部長から「一年12月に「推進法」が施行された。この法律は、部落差別は社会悪であるとうたわれていたが、差別事件が連続し、これらの差別撤廃に向けて条例等で規制していくことも必要。また、女性部との共催で学習会等も開催するので、各支部で話し合いをし、意見を集約し

たい」とあいさつした。つづいて、来賓の藤本哲史・県連委員長、県連組織内候補の藤本眞利子・県議会議員、山本昌代・県連女性対策部長からあいさつをうけた。次に、小嶋仁史・事務局次長から2017年度の経過報告をおこなったあと、久保智弘・事務局次長が活動方針(案)について、青年部の組織強化や部落解

放・人権確立に向けて、狭山差別糾弾闘争、差別糾弾闘争、行政闘争、組織強化拡大に向けてなどが提案され参加者全員が拍手で確認した。次に、塩崎宇宙・大会運営委員長(那賀)から、今大会の参加人数・役員体制などについて報告され、参加者全員で採択した。

最後に、飯田義章・青年対策部員から「今日、青年部定期大会で採択されたことを各支部にもち帰り青年部活動に活かしていただきたい」と閉会のあいさつを兼ねて団結頑張ろうをおこない、第39回青年部定期大会が終了



参加者全員で運動にまい進することを誓いあった

◆メッセージ

山崎鈴子(中央本部女性運動部長)、仁坂吉伸(県知事)、尾花正啓(和歌山市長)、鶴岡弘美(大阪府連女性部長)、植村あけみ(兵庫県連女性部長)、山崎鈴子・磯貝永子(愛知県連女性対策部長・女性部長)、新谷章恵(京都府連女性部長)、松谷操(奈良県連女性部長)

(2ページから)

て活動をおこなってきた。人種差別・部落差別・女性差別・子どもや障がい者問題、インターネットによる侵害、狭山事件、鳥取ループの「部落地名総鑑」などさまざまな問題解決に向けて対応してきた。しかし、未だ根本的な解決にはいたっていません。一昨年に施行された「推進法」をどう活用していくかが今後の課題でもある。人権侵害はあつてはならないことで、両者とも決して幸せにならない」とあいさつし、さらなる協力を呼びかけた。来賓に県より原田武男・人権局長、和歌山市より和田年晃・市民環境局長から祝辞をうけ、部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行員会の田上武・会長から「今年には世界人権宣言から70周年。障がい者雇用の水増し

問題、各省庁含め民間の会社に指導をおこなう立場でありながら水増しをしてきた。このような安倍政権の現状に、反差別・人権尊重を今まで以上に声をあげていかなければならない。今まで以上に皆様のご協力をお願いする」とのあいさつがあった。活動報告・活動方針案を入口博文・事務局次長より、決算・予算案を宮本修作・事務局次長より提案があり、朴正隆・議長(JP)、濱地正由・副議長(連合和歌山)、通阪哲史・副議長(NTT)、加藤康夫・事務局次長(県職)、南喜貴・事務局次長(JP)の新たな役員体制のもと、参加者全員で総会宣言を確認し、これからも加盟団体の力を結集、団結し奮闘することを誓い合った。